（その四）

工場又は事業場の名称	東レ・ファインケミカル株式会社 千葉工場

3　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)　基準年度における処理回収率等

	基準年度 平成１２年度
使用量 (kg／年度) （１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。）	3 1 0 0 0 0 0 0 .
	×１０
排出等の量 (kg／年度)	1 4 0 0 0 .
処理回収率 (%)	1 0 0 .

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基）

備考

1　この項の提出は任意であること。
2　基準年度は、２(1)の基準年度と一致させること。
3　使用量及び排出等の量は、２(1)の基準年度におけるものと一致させること。
4　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
{（使用量－排出等の量）／使用量}×１００

(2)　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	3 1	4 9	5 2	5 3	5 4	5 7			

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

・酸化ｴﾁﾚﾝ貯槽の圧力制御の圧力範囲（一定圧から圧力に幅）変更により、受け入れ時の大気放出量の抑制をはかった。

・タンクローリからの受け入れ排出抑制のベーパーリターンラインを設置。

備考 この項の提出は任意であること。